

CWAJ VVI Newsletter

2017 年秋号

目次

1. ごあいさつ
2. ECG（英会話の集い）の報告 4月1日（土）ニュージーランド入門
3. 2017 年度 CWAJ 奨学生のご紹介
4. 2018 年度 CWAJ 視覚障害学生奨学金のお知らせ
5. ハンズ・オン・アートと第 61 回 CWAJ 現代版画展のご案内
6. VVI 新日本人リーダー 高橋美都子さんインタビュー
7. 編集後記

各項目の最初に★印をつけてありますので、★印で項目検索にご利用ください。

**CWAJ** = College Women's Association of Japan

**VVI** = Volunteers for the Visually Impaired（視覚障がい者との交流の会）

**ECG** = English Conversation Gathering（英会話の集い）

**SVI** = Scholarship for the Visually Impaired（視覚障害学生奨学金）

**JVDCB** = Japan Vocational Development Center for the Blind（日本盲人職能開発センター）

1. ごあいさつ

皆様、お元気ですか？もうすぐ全国高校野球大会が始まりますね（2017年7月20日現在。）ECGでは、4月にニュージーランド、6月にブラジルの集いがありました。お伝えしたいことがたくさんあるため、今号ではニュージーランドのみを特集し、ブラジルについては次号でご報告いたします。

秋号では、2017年度CWAJ奨学生もご紹介いたします。また、2年ぶりに東京で開催されるCWAJ現代版画展とHOA（ハンズ・オン・アート）についてもお知らせし、VVI新日本人リーダー高橋美都子（たかはしみつこ）さんへのインタビューも掲載いたします。それでは参りましょう！

2. ECG（英会話の集い）の報告 4月1日（土）ニュージーランド入門

ニュージーランドは、赤道と南極の中間あたりに位置する美しい島国です。ニュージーランド出身のCWAJメンバー、シェリル・ブレンナンとニッキ・ハーランド、ニッキの娘のオリビアが母国についてのプレゼンテーションを4月1日（土）、渋谷男女平等・

ダイバーシティセンター<アイリス>にて行い、26名のVIフレンズ、6名のご家族や知り合いやガイド、22名のCWAJボランティアが参加しました。プレゼンはマオリ語による挨拶で始まり、ニュージーランドを身近に感じてもらうと羊の毛皮や立体地図を持ち込んだり、音声でマオリの音楽や牛や羊や鳥の鳴き声を披露したり、ニュージーランドで人気な日本未入荷のお菓子をみんなに食べてもらったりしました。ニュージーランドの英語はイギリスの英語に似ています。3人によるプレゼンを渡邊由香(わたなべゆか)が要約してお届けいたします。

ニュージーランドは、北島と南島の2つの主要な島と約600ある小さな島々で構成されています。立体地図に描かれているのは、北島、南島と小スチュワート島です。北島の中央を横切るように火山帯があり、付近のクレーターは湖になっています。南島には南アルプス山脈があり、最高峰のクック山は標高3,754m、山の麓のジグザグしているものはワカティプ湖です。地図上のハートマークは主要都市で、北島の上の方に、国の人口のほぼ3分の1が集中している最大都市のオークランド、下の方に首都のウェリントン、南島には、2011年に大地震の被害で有名になってしまったクライストチャーチがあります。南島の方が北島よりも広いのですが、ニュージーランドの人口の4分の3は北島に住んでいます。

日本とニュージーランドは、9,000kmも離れていますが、火山や温泉や地震など、両国には共通点が多いです。南北に長く山地の多い日本は高人口密度ですが、ニュージーランドは平地が多く、人口密度が低い代わりにたくさん羊や牛がいます。

ニュージーランドの歴史は、約800年前、マオリ族がやってきたところから始まります。800年しか歴史がないので、ニュージーランドは東京の神社のわきに生えてる銀杏の大木よりも若いわけです(笑)。マオリ族の移住から約400年後、オランダの探検家アベル・タスマンが「新しい島」を発見し、「ニュー(新しい)ジーランド(ゼーランド、オランダの州名)」と命名。その120年後、イギリスのクック船長がニュージーランドをイギリス領と宣言。キリスト教宣教師や捕鯨業者や船乗りや商機を求める人々が入植、やがて農地を求めて多くのイギリス人やアイルランド人がやってきます。1840年2月6日、ニュージーランドの統治はイギリス、土地や資源の所有はマオリ族、というワイタング条約がイギリス連邦政府と多くのマオリ族首長間で締結されます。

ワイタング条約の英語版とマオリ語版には齟齬があり、マオリ族に保証されたはずの権利のほとんどは顧みられず、その後の100年間で、マオリ族はかなりの土地を失いました。ワイタング条約の理念を正しく守るために、1975年、政府はワイタング審判所を設置。各地のマオリ族によってもたらされた主張を審理し、裁定に応じて土地を返還し、

補償を支払うことで和解しています。教育界ではマオリ語とマオリ文化の指導が推進され、マオリ語のラジオやテレビ局が開設されてマオリ語復興を後押しします。国会でもマオリ族は一定数の議席を保持しています。マオリ語は日常の英語にごく自然に溶け込んでいて、例えば、わたしたちはお腹がいっぱいになると、“you’ve got a fat puku”と言います。プクはマオリ語で「お腹」です。

今日のニュージーランドは多くの移民を受け入れていて、最新の人口比は、ヨーロッパ系 70%、マオリ族 15%、太平洋諸島 7%、アジア系 8%。多様な文化が共存しながら仲良く暮らしています。

さて、皆様、これは何の声でしょう？

そう、羊です。ニュージーランドには羊がたくさんいることを、みなさんをご存知ですね。かつては 7 千万頭ほどいましたが、2016 年現在では約 2,760 万頭、人口の 6 倍くらいです。羊の飼育は古くからニュージーランドの主幹産業で、1882 年にはすでにイギリス連邦に羊の冷凍肉を輸出していました。羊毛輸出量は世界一。（牛の鳴き声）牛もたくさんいます。酪農もニュージーランドの主幹産業で、世界の 4 分の 1 の乳製品を生産しています。ニュージーランド産のアイスクリームは、とても美味しいですよ。林業も盛んですし、りんご、キーウィなどの果物も有名です。また、ヨーロッパ屈指のワイナリーと技術提携して上質のピノノワールやソーヴィニヨン、スパークリングワインなどを生産しています。

観光業も盛んです。毎年 270 万人もの観光客が、自然の美しさに魅かれてニュージーランドを訪れます。定番のホエール・ウォッチング、マオリ文化体験の他にも豊かな自然を生かしたカヌー、バンジージャンプ、ヘリスキー、マウンテン・バイキングなどのアドベンチャー系ツアーも人気です。最近では映画産業も進出し、「ロード・オブ・ザ・リング」三部作、タイカ・ワイティティ監督の「ハント・フォー・ザ・ワイルダー・ピープル」などは、ニュージーランドで撮影されました。

マオリ族について、もう少し詳しくご紹介します。

マオリ族は天空や風や潮の流れを読む技術に長けていて、大海原のどこにどんな島があるのかをよく知っていました。そして、手漕ぎのカヌーに生活道具を積み込み、定住という目的をもって、「アオテアロア（長くて白い雲の土地）= ニュージーランド」にやってきました。マオリ族は、釣り用、戦闘用、儀式用、など多種のカヌーを使い分け、高い戦闘力を持ち、食人慣習を持っていました。また、多神教で、父なる空の神（ランギヌイ）と母なる大地の神（パパチュアヌク）、海の神（タンガロア）や鳥と森の神（タネマフータ）を信仰していました。

マオリ族の神話によると、半神半人のマウイが釣りに出かけ、釣り上げた大きな魚が

テ・イカ・ア・マウイ(北島)、乗っていたカヌーがテ・ワカ・ア・マウイ(南島)、乗ってきたカヌーの碇がラキウラ(小スチュアート島)で、いっしょに来ていた兄弟たちが魚を切り刻んだ跡が山や川となったのだそうです。

マオリ族は部族(イウイ)ごとに共同体を形成していました。共同体は首長が統治し、部族は近隣に住むいくつもの準部族(ハプ)によって構成されていました。ハプは、共通の祖先をもつ家族(ファナウ)によって構成されていて、最小のマオリ共同体です。今日では多くが都市部に居住していますが、部族の結束は固く、日常生活の中心に集会場(マラエ)があり、大地と祖先を大切にしています。

マオリ族は、特別なお祝い事の際に「ハンギ」を行います。ハンギとは、肉やイモ類やかぼちゃなどの野菜を大きな容器に入れて、地面に掘った深い穴に閉じ込め、熱い石で長時間かけて蒸し焼きにする伝統的調理法で、出来上がった肉や野菜は柔らかくて風味豊かでとても美味しいです。ハンギはマラエに集う人々に振舞われ、マオリ族からハンギに招待されたらラッキーなこと、と見なされます。

マオリ文化には文字が無く、19世紀になって文字が考案される前は語りや歌、群舞などで文化を後世に伝えていました。入れ墨にも過去の出来事を刻み込んでいました。マオリ族は卓越した彫刻技術を持ち、工芸品のみならず、カヌーや建物にも美しい彫刻を施します。

ニュージーランドのラグビーのナショナル・チームが試合前に披露する儀式的な「ハカ」は、マオリ族の群舞の中で最も有名です。女性による「ポイ」は、ボールをひもにくくりつけ、音楽に合わせて振り上げながら踊ります。聖ジョゼフ大学女子コーラス部演奏による「タクワレ イー」をお聞きください(音声)。

さて、お茶の時間に欠かせないお菓子をどうぞ。ニュージーランド産のジンジャーキッスとラミントンです。ジンジャーキッスは真ん中にクリームが詰まっていて、ラミントンはチョコレートとココナッツがコーティンされたケーキです。わたしたちの母国での日常生活について、少し話します。

ニュージーランドは南半球にあるので、12月から2月にかけて夏季となります。日本と正反対ですね。学校では12月が学年末で、夏休みが始まるとクリスマスや正月がやってくるわけです。わたしたちはアウトドアがだいすきで、夏休み中はよく海辺や湖のそばでキャンプをします。キャンプ場はあちこちにあります。日中を水泳、カヤック、サーフィンや釣りなどして過ごしたら、あとは定番のバーベキュー! 家族や友人と屋外で食事するのはとてもいいものです。冬はスキーやスノボードも盛んです。日本の雪質に惹かれて、夏休みにウィンター・スポーツをしに日本に行く人も多いです。

ニュージーランドはいろいろなスポーツが盛んですが、国を代表するスポーツと言ったら、やはりラグビーでしょう!日本は、2019年にラグビーのワールドカップを初開催しますね。ぜひ、我がオール・ブラックスを応援してください!試合開始前には必ずハカが流れますからすぐわかります。これです(音声)。元々はマオリ族が敵を挑発するときに踊るダンスです。

ニュージーランドは公共交通機関が未発達で、移動はだいたい自動車です。自動車運転免許は、16歳で取得できます。

最後に、ニュージーランドの動植物についてさっと紹介します。

ニュージーランド人は世界中で「キーウィ」と呼ばれますが、これはニュージーランドの国鳥であるキーウィに由来します。果物のキーウィの方が有名ですが、ニュージーランドでキーウィと言ったら、まず鳥のことです。キーウィは、茶色い小さな鳥で、夜になると芋虫や虫を食べに出てきます。鳥と言っても飛べなくて、とても恥ずかしがり屋です。こんなふうに鳴きます(音声)。

ニュージーランドでは哺乳類の代わりに鳥類、爬虫類、魚類や昆虫類が独特の進化を遂げてきました。珍しい爬虫類の固有種の筆頭にトゥアタラ(ムカシトカゲ)があります。恐竜と同じくらい昔からいるそうです。

シルバー・ファーンはニュージーランドを象徴するシダ科の植物で、その新芽「コル」(マオリ語)は、ニュージーランド航空のロゴマークになっています。

日本と違い、ニュージーランドのほとんどの樹木は常緑樹で、常緑樹の森には小鳥がたくさん棲息しています。

パイナップル・ランプをどうぞ。これもニュージーランドで人気のお菓子です。それから羊の毛皮も持ってきましたので、ぜひみなさんで触ってお楽しみください。わたしたちのプレゼンテーションは、以上です。ハエレ・ラ(さようなら)!

シェリル・ブレンナン、ニッキ・ハーランド、オリビア・ハーランド

プレゼンテーションの後には質問・おしゃべりタイムが設けられ、ニュージーランドにはトヨタ車がたくさん走っていること、政府は若者に見聞を広げてもらいたくて大学卒業後のモラトリアムを奨励していること、また、原発を巡る国の採択についても話題となり、話は尽きませんでした。参加したVIフレンズの感想を、ごく一部ですが紹介いたします。

・今回のニュージーランドのお話、今までで一番楽しんでお聞きできたと感じています。プレゼンの最初の方は特に、ゆっくりお話し下さったので、音としては聞き取れるよ

うな感じがしました。お菓子も、はちみつも、とても美味しかったですし、雰囲気も大変良かったです。ニュークリアフリーというのはうらやましいです。

・NZの歴史、成り立ち、マオリ族の風習、国民性などを詳しく教えてもらい感謝しています。特に印象に残ったのは、自然を愛する姿勢と『核』をきっぱりと拒絶する国民性です。頭に浮かんだ牧歌的な情景は人の営みの原点を見た気がしました。楽しいお話と豊かな時間をどうもありがとうございました。

次号では、ブラジルについて詳しくお伝えします！

ECG リーダー、ルジュータ・パラドゥーカル、森藤純子（もりとうじゅんこ）

### 3. 2017 年度 CWAJ 奨学生のご紹介

5月10日、東京アメリカンクラブで2017年度CWAJ奨学金の授賞式が行われ、9名の奨学生が紹介されました。今年の視覚障害学生奨学金を受けられたのは兼子莉李奈（かねこりりな）さんと森雄大（もりゆうだい）さんです。

兼子さんはバイリンガルで、英語で授業の行われる上智大学国際教養学部国際教養学科で政治学を専攻しています。また、周囲の人々に障がいの理解を深めてもらおうと、日米学生会議やグーグル株式会社でのインターンシップを通して、自身の弱視という障害について発信し続けています。趣味はバイオリン。幼い時から長年続けているクラシックバレエでは、英国ロイヤルアカデミーオブダンスのプロ試験に合格、次は同アカデミーの登録師資格取得を目指すそうです。これからも社会の障害者への見方が変わるような活動をしていきたいそうです。

森雄大さんは福島県出身、高等専門学校でコミュニケーション情報学を学び、現在は新潟大学経済学部で経営学を専攻しています。弱視と視野障がいを併せ持ち、文字の読み書きには時間がかかるため、大学ではiPadの読み上げ機能等を活用しながら勉強しています。経営学の中では労働者を積極的に戦略に活用していく「人的資源管理論」に関心があり、将来は、障がいのある人の就労支援に関わる仕事をしたい、と考えています。今後は、大学の外にも関心を向けて、学会に参加したり、障がい者の働く現場に行き調査をしながら見聞を広げていきたいそうです。

CWAJ 海外留学奨学金は、今年も2名に授与されました。廣瀬匠子（ひろせしょうこ）さんは米国コロンビア大学の修士課程で社会・組織心理学を専攻、人間関係性が個人のパフォーマンスに及ぼす影響を研究し、将来は組織と個人の両者共がメリットを享受できる働き方の仕組みを考え、実現に寄与したいそうです。

島亜紀（しまあき）さんは、英国ヨーク大学大学院修士課程で犯罪学を専攻していま

す。日本における刑事政策の分野は主に法学部のカリキュラムで展開されていることに注目し、その分野に社会学や心理学の知見を持ち込みたい、と考えています。将来は、英国で学んだ知識やスキルを元に、犯罪学に関する学術的な教育プログラムの日本版を構築したいそうです。

外国人留学生奨学金は、今年は2名に授与されました。ネパール出身のママタ・ギミレさんは筑波大学大学院研究科で保険医療政策学を学び、日本の健康保険のシステムを母国に持ち込みたい、と考えています。カザフスタン出身のサウレ・ジョルダヤコヴァさんは東海大学大学院総合理工研究科博士課程で環境保全の観点から水素エネルギーについて学び、次世代にクリーンなエネルギーを残したいそうです。

福島支援奨学金は、福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程の菅野範子（かののりこ）さんと森美由紀（もりみゆき）さん、同大学同学部看護学科3年の薄井優香（うすいゆか）さんの3名に授与されました。

9名の奨学生の皆さんの活躍を、心からお祈りしたいとおもいます。

CWAJ 奨学金委員会 コーチャーター 吉村啓子（よしむらけいこ）

#### ★4. 2018 年度 CWAJ 視覚障害学生奨学金のお知らせ

CWAJ では 2018 年度も下記のように奨学生を募集します。

- ・ 視覚障害学生海外留学奨学金 1名 300 万円  
(過去に CWAJ 視覚障害学生奨学金を受けられた方でも応募できます)
- ・ 視覚障害学生奨学金 2名 各 150 万円

詳細・募集要項などは CWAJ ウェブサイト [www.cwaj.org/jp](http://www.cwaj.org/jp) に掲載されていますのでご参照ください。

#### 5. ハンズ・オン・アートと第 61 回 CWAJ 現代版画展のご案内

2016 年の版画展は、前年の 60 周年を記念してアメリカ、マサチューセッツ州、ケープコッドで開かれたことは皆さんご存じのとおりですが、今年は日本に戻り、第 61 回現代版画展が新しい会場で開催されます。

日程：10 月 25 日から 10 月 29 日までの 5 日間。

会場：渋谷区代官山にある、代官山ヒルサイド・フォーラム。

(東急東横線の代官山駅から徒歩 6～7 分、ヒルサイド・テラスの一角です)

今年も、この版画展に選ばれたたくさんの作品のなかから5点を選び、皆さんに「ハンズ・オン・アート」(手で触れて楽しむアート)をお楽しみいただけることになりました。現在 CWAJ のメンバーが、これら作品の立体コピーの制作を始めています。この中には、2020年のオリンピック・パラリンピックのエンブレムをデザインされた野老朝雄(とことろあさお)さんの作品もあります。そして大変ありがたいことに、野老先生のご厚意により、ご自身の作品の版木をご提供くださり、皆さんに触れて鑑賞していただけることになり、大きな魅力が加わりました。是非、ご自身で体験してみたいはいかがでしょうか。

今年の「ハンズ・オン・アート」は、現代版画展期間中の10月27日(金)、28日(土)、29日(日)の三日間に実施されます。CWAJでは、代官山駅から会場までのボランティア・ガイドを用意いたしますので、希望される方は、以下の時間帯のご都合に合わせて、事前にご予約ください。10月14日までにお願いします。皆さんのご来場をお待ちしています。

集合時間：10月27日(金曜日) ①午前11時

10月28日(土曜日) ①午前11時 と ②午後2時

10月29日(日曜日) ①午前11時

集合場所：東急電鉄東横線「代官山」駅(各駅停車のみ停車)北口

\*ご予約：阿部順子(あべじゅんこ) メール [j-abe@fuji.email.ne.jp](mailto:j-abe@fuji.email.ne.jp) まで

\*ハンズ・オン・アートに関するお問い合わせは：[VolunteersVI@cwaj.org](mailto:VolunteersVI@cwaj.org) まで

第61回 CWAJ 現代版画展についての情報は、9月から CWAJ ウェブサイト

[www.cwaj.org](http://www.cwaj.org) に日本語、英語で掲載されます。会場の代官山ヒルサイド・フォーラムの地図も入る予定です。

ハンズ・オン・アート コーディネーター 石井ふみ子 (いしいふみこ)

## ★6. VVI 新日本人リーダー 高橋美都子さんインタビュー

高橋美都子(たかはしみつこ)さんは昨年10月に CWAJ に入り、翌月、内閣官房主催の日米草の根外交団米国ツアーから帰国後、CWAJ 奨学生の選考委員になりました。そして年末には VVI の日本人リーダーを快く引き受けてくれました。流暢な英語と茶髪で鼻筋の通った顔立ちから「日米ハーフ?」と思いましたが「100%日本人」なのだそうです。

Q1. 日本経済新聞をはじめ、いろいろなメディアが高橋美都子さんを「海外での経験が豊富で、いつも前向きなビジネス・ウーマン」と紹介しています。現在は起業されて、ご自分の会社をお持ちですね。多忙な日常をどうコントロールなさっているのか、時間を管理するコツなど、ありましたら教えてください。

A1. 時間の管理のコツですか? そうですねえ・・・仕事が重なってしまい、取捨選択せざるを得ないこともありますよ。つい最近だと、CWAJ 奨学生の選考後期にどうしても渡米しなければならない仕事が重なってしまい、やむを得ず前者の仕事を途中で降りました。最後までやりたかったです。わたしは、面白いことに会えると、いつも「やります!」と即答します。決めたら迷いません。「保留」という選択肢はありません。そして、いったん決めたらあとは突き進みます (笑)。VVI リーダーは2人体制ですから、パートナーとはコンタクトを取り合い、お互いのスケジュールをすり合わせ、時間の空いた方がそのときある仕事をこなす、という方針で動いています。皆さんに楽しんでいただけるような企画を考えていきたいです。

Q2. 迅速な決断と抜群な機動力で日常を突き進むのですね (笑)。現在、VVI ではどんな活動をなさっていますか?

A2. JVDCB で英語を教えています。タイで日本語教師の支援をしたことがあり、教えること自体は初めてではないのですが、生まれて初めて視覚障がいを持つ方々に出会いました。CWAJ のベテラン・メンバーにいろいろ教えていただきながら新たな経験を積みせていただいております。

また、次の ECG をブラジル大使館で開催しようと計画していて、リーダーのルジュータと森藤純子 (もりとうじゅんこ) がもうすぐ大使館まで打ち合わせに行きます (2017 年 5 月 18 日現在)。二人に協力しながらよい集まりにしたいです。

Q3. 視覚障がい者との触れ合いを通じて感じたことを教えてください。

A3. 目が見えないとはどういうことなのか、改めて考えました。中途失明者の方のお話を伺い、それをきっかけに、今まで考えたこともなかった多くのことに気づき、学ばせていただいています。例えば、人との出会いについて、人をどうやって好きになるのかと聞いたら、その人の「気配」や「声」で好きになる、と言われました。この感覚は、晴眼者にはなかなか判らないことだと思いませんか? このような表現は初めて耳にしました。とても興味深かったです。また、晴眼者が視覚障がい者に配慮したつもりで、「危ないですよ」と声掛をかけずに体などに触れると怖いのだということを教えられて、驚きました。

Q4. これからの人生の歩み方について、ひとことお願いします。

A4. いろいろな仕事をしてきましたが、どんなときでも母から言われた「世の中の役に立つ人間になりなさい」という一言を忘れずにいました。仕事は人の役に立ってこそやり

がいがあります。子供たちも大きくなって独立した今、企業の利益を引き出す仕事は辞めて、自分が経験してきたことを社会に活かして還元する方向へと人生をシフトしました。起業したのもそのような思いがあったからです。CWAJ では VVI を通して視覚障がい者と触れ合い、奨学金を給付する活動を通して社会とつながっていきたいです。

— ありがとうございます。

インタビュアー 渡邊由香（わたなべゆか）

## 7. 編集後記

ニュージーランドでは世界各地からの移民がそれぞれの良さを認め合いながら平和な共存を目指しています。高橋美都子是一目おかれるビジネス・ウーマンですが、人と触れ合い、人を助きたい気持ちを大切にしながら新たな人生を切り開こうとしています。今号では紹介できませんでしたが、ECG の新日本人リーダー、森藤純子は両親、祖母を介護して見送り、60 歳をかなり過ぎてから CWAJ に入会、40 年来の耳の障がいであるように動けないときもあるそうですが、前向きな VI フレンズから元気をいただいて、ECG の企画や JVDCB のアシスタントを楽しんでいるそうです。

CWAJ メンバーの平均年齢は毎年高くなりますが、世の中を見つめ、生きることを試行錯誤するとき、人は、けして年をとらない、と思います。心だけでなく、身体も大切にしながら、今年の秋も怒ったり笑ったり、悲しんだり喜んだりしながら乗り切りていきましょう！

CWAJ/VVI ニュースレターは、CWAJ ホームページでもお読みいただけます。

<http://www.cwaj.org/Education/vvi-j.html>

皆さまのご感想を、ぜひ下記の連絡先までお寄せください。

連絡先が変わった方も、下記までご一報ください。

(連絡先) [VolunteersVI@cwaj.org](mailto:VolunteersVI@cwaj.org)

編集担当：渡邊由香（わたなべゆか）

発送担当：本村理子（もとむらみちこ）